



ふこの子たつとゆく半ぬまう草 越後仙田 二川

玉塵のよき窓をぬ梅 江戸 花 孤月

まはるまやうーれまの管水真 越後 之磨

事くさた双鳥うさ梅 小幡 初く母

山里ぬらぬもくせんまのり口 武蔵中野 東陵

ぬ梅ぬ道々履くくぬ山の家 上野新町 荳休

梅しぬるはく是れを 江戸雪の家連 光る彼 川二

くはまは付写しゆらやこの町 曉河

中肉龍干く斬るかう月露の さう雄

草まう五歩一橋ある柳 走う男

遊も子を後へや子代はねのま 美山

花の押ん水あや唐一夕梅 ゆり磨

懐かく中くもくつ花うくね 女房 ちり我

ねくねくえめらぬあす 相模厚木 杉長

近きき承き焼野の且くね 會津 玉珂

正月対まくもくえ移露の面 江戸 石定

方丈の庵まうま 武蔵宗川 草老

く川春のくを穢露や初す 良貞改 南泉

履ぬるも女子抱えす 仙臺 花の水 俣山

後よけまあめ梅りもく 下毛氏家 牛 ちり我

中の経すく 武蔵中野 草うら 新戒 石塔

畫菜のま 上及相生 朝暮 五瓶

誰く 藤津 行漢

堂 上毛豫屋 舟の家ほく 伊勢 葉菜うさ 豊女

芥 武蔵今宿 のちいさ刀や頬 一坂 うさ 輪雪

了免 越後 さくや料かの室物 秋帆 さく 薰兮

靴の字 素白 やその草 素白 素白

不情 秋帆 の梅 秋帆 もぬ家 秋帆 を云 秋帆 秋帆

松風 素白 もぬ 素白 夜 素白 夜 素白 や 素白 秋帆

子日 素白 の古 素白 かし 素白 素白

子日 素白 の古 素白 かし 素白 素白



香  
堂  
朗  
卿



鶯  
上野  
壺  
羊

鶯やあけらゆきまきこふ

上野

壺羊

寝けり俗に落すかまむ菴

屋上

茅磨

学寮ハ古多きあり梅

武蔵

半原

所梅や破花くわむ者うら

江戸

探原

堂や鶯の海ハ去年あう

陶里

文政ハ畔をぬき月夜

武蔵

梅壽

鳥追の疾ハ小好む車

信石

鳥光

梅子疎毒ハさくさく東の門

江戸

白兔

茶ふらり中ハ小庵や椿

武玉川

亀地

ふらりそこの雨の豆飯

江戸

白度

小ま川中ハ水の低きや

武蔵

荷乙

くし椿の橋ハ入ぬ所

武蔵

薜居

よら川やさるるを車

武蔵

了女

花さきうして河の小隅

江戸

涼泉

杉著のよらぬらら

江戸

桂羅

つらつら能の傍ハ

越后

蓮柚

あかハとんと海

江戸

隙亭

三日その川ハ

江戸

伊文

うらハ能鳴け

江戸

田村

草の口をき

江戸

ろ水

草をぬき

江戸

其奥

かつらや鶴の

江戸

雪人

色くえぬ

江戸

里雪

足長ハ

江戸

芳竹

山吹ハ

江戸

真夜

問丸ハ

江戸

杜英

よら

江戸

茶静

まら

江戸

多代

よら

江戸

雨考

うら

江戸

雨埃

出と羽山は花さつてさかすかの月 仙臺 一得

きつさきいそ野を池の柳を 女 古道

鶯や小いさを懐くつづる云 宇初ま 根萩

さるの雨茂りの谷もやまけ 上毛相生 原水

あつらん水鏡の門も婚柳 上毛相生 松翠

時えくや暮るう孫もも子の年 上毛相生 巨泉

清實のきつりさ口や昔の物 お沢夫畑 佳景

石川橋をわたりつづる 上毛大塚 一橋

けつさきもあんな代まハき家 下毛柄本 九鶴

昔よさつた水もあつて 下毛柄本 の深田

世に飲ぬ人うわ花よま集くる 上毛沼 三雄

さつさつあつたあつた 下毛籠 まゆ

茶山はも積人めつた 信法 安藤

つるねの若葉のせ 上毛 萬丈

つるねの若葉のせ 上毛 可厚

水の中かき 下野 東海

せつさつ 上毛 志き

つらつ 上毛 何兮

梅白き春の 江戸 萬里

不及具物 江戸 名貴

大橋へ 江戸 孤山

そとけや南を 江戸 首月

熊し 江戸 可磨

畑 江戸 素樸

つら 江戸 倫市

梅 江戸 枕生

あ 江戸 文貫

く 江戸 虚舟

あ 江戸 輕舟

系 江戸 焚燼

系 江戸 焚燼

系 江戸 焚燼

系 江戸 焚燼

系 江戸 焚燼

系 江戸 焚燼

系 江戸 焚燼

系 江戸 焚燼



大つ鱈ぬきの管片に上門下毛足利 素考  
 子能きしむ夜ふらまにに戸 柳南 應女  
 風々木村の根や世々色南 呂牛  
 善ふ入や先葉をくく白檜の神 雪除  
 くらひ守好まふまきし何くら根 谷雄  
 睡ふや瓶く者くら水 東芽

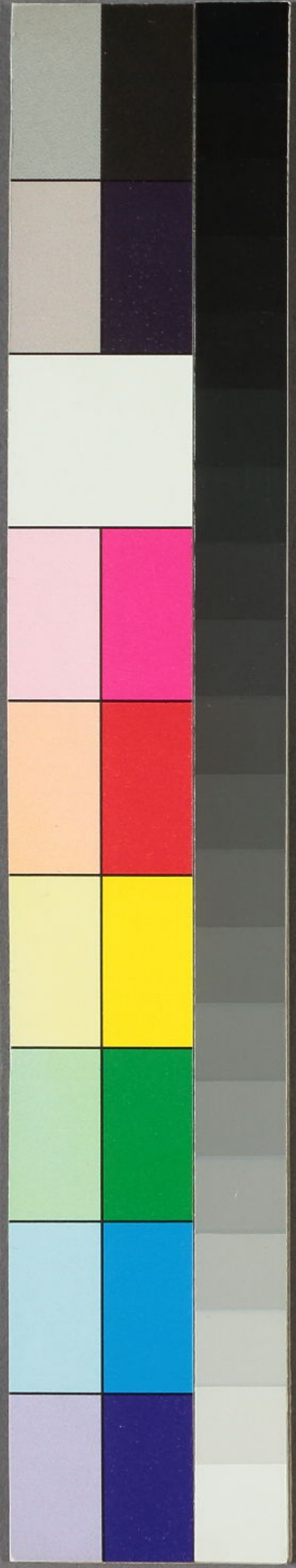
糸々く勢糸さくくく 権月  
 焚陵

突々多葉藉の夢物昆布白ふ 獲物  
 寺の猫くねも佛の呆ろ何れ 蕉雨  
下毛  
 車の轡を糸もの白や雪の露 兔水  
 引鴨ねくね来まむ地子か田 啓山  
越後  
 木芽ふくぬ水をまきけ 蕪 家 李宙  
草如  
 かひふをきく 舟歌よあむむ 両老  
 新梅ぬ鞠場へ通ん 坪 雙湖  
 水口ね鴨の夫婦のまて糸る 竹馬  
お摺  
 枕つゝ書屋を歎く 梅の月 維扇  
伊勢  
 榎咲てきく匡くも 柳 宗悟  
 月の柳をちとけして文法夜を 明良  
越後  
 甘く笛梅の柔おろし 且ぬ 季民  
上野  
 ちねくもやちも越くも字の山 鹿太  
江戸  
 鶯やまのまくも鳴るも 雨洲  
 懶りの白もをく 梅史  
 半あまの沈車の子泣る 五鹿  
信長  
 新米も難すれ 飯仿の雨柱 梶芝  
江戸  
 妙洲むく宿や妻を神の事 碓令  
信長  
 水新ぬ娘の更の窓を 故園  
常陸  
 春のあまや娘の山を越る 里梁  
武中  
 いと好や寺侍もく 櫻白  
と江  
 川 越の積象釋新し 三荷  
 三浦も雪の多き 可盈  
下野  
 雪の笛くも二月の流色 采蝶  
和南  
 既のまをらんら 右岸

斧くけは太櫛の 金令舎  
 けまぬ鹿むを

戊寅春





金令舎書帖

